



# 布施だより

## 《 笑(\*^o^\*) 顔~創立50周年記念 航空写真撮影 ~ 》

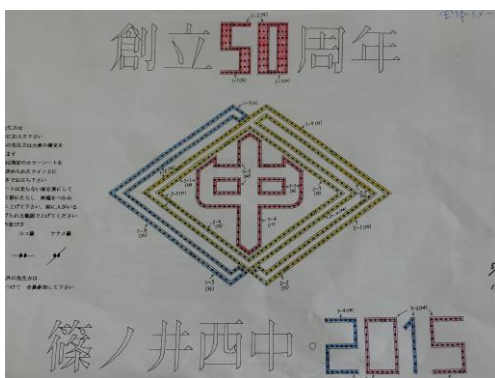
5月27日(水) グランドで、昇降口前で、全校生徒と先生方が「創立50周年記念」を祝って、航空写真を撮りました。真夏の陽差しを浴びながら、目を細めて撮影を待つ生徒たちは、なかなか満更でもないようです。カラービブスを両手で持ち上げて、セスナ機を見上げる生徒たちの口元はポカ〜と自然に開いて、笑顔がこぼれます。昇降口前に移動しても、カメラマンの方に向かって、胸の前で小さく手を振り、ガッツポーズを取ります。そして撮り終えた後、カメラマンの方に拍手でねぎらって差し上げています。

そのただ中にいるときは気づかないのですけれど、いつの日か振り返って、母校が50年目を迎えた節目に、熱い陽差しの中に確かに自分たちがいて、仲間たちと同じ時間と空間を共有したのだと懐かしく思い返す時が必ずきます。

それが西中の歴史の積み重ねになり、母校をずっと大切に愛し、想い続けていくことにつながっていきます。そんなことを考えつつ、素敵な撮影の時間を皆さんと過ごすことができました。

# 50th

2015



## 《 なぜかとても気持ちがいい音だな ~壮行会で~ 》

5日(金)に北信陸上・市中大会・技術部鈴鹿大会の壮行が開かれました。次の文章は壮行会を終えた翌週の「学級だより」からお借りしたものです。

○壮行会がありました。自分はステージに立った。すごく緊張しました。ステージに立っていない2年生や(フロアにいる)少しだけの3年生の声がとても大きくて、迫力がありました。今までの応援練習を頑張ったんだなと感じることができました。こんな応援をされて、自分たちがステージに立っているのが、とても誇らしく感じました。

○壮行会がありました。私は運動部ではないので、一体どんな思いで、選手の皆さんがこの壮行会に出ているのか正直なところよく分かりません。けれども、せめて試合中にこの壮行会を思い出して、背中を押せたらと思い応援しました。選手入場、退場の時、吹奏楽部の演奏と、応援をした人たちの拍手の音が重なってなぜかとても気持ちがいい音だなと感じました。全力で頑張してほしいです。

この日までの各学級・学年での応援と5回の全校応援練習を経て、初めはなかなか声や動作が揃わず、もどかしい思いを抱いていた生徒たちが、壮行会当日に選手入・退場の時、吹奏楽部の演奏と応援をした人たちの拍手の音が重なることの気持ちよさに気づきます。それは拍手の音が重なるのと同様に、677名の生徒諸君の壮行の気迫がピタッと重なり合った心地よさなのですね。だからそんな気迫溢れるステージに立った選手諸君は『誇らしく』受け止めることができるのです。これを人は『意気に感じる』と表現します。

壮行会を終えた後、応援団諸君は応援をしてくれたフロアの諸君に、これまでの応援練習と気迫を揃えてくれた壮行に対してお礼の気持ちをきちんと伝えます。そして全校生徒が退場した後、次に応援団諸君は吹奏楽部諸君の所へ駆け寄って、演奏のお礼を伝えます。

気迫と熱情と節度に満ち溢れた素敵な、素敵な壮行会でした。



# 《 キズナ Power で広げよう 677 のえがお ～ 私の、僕のクラスの人権宣言 ～ 》

生徒昇降口を入り、目を上に向けると、20枚の模造紙1枚1枚に描かれた「キズナ Power で広げよう 677 のえがお」の文字が飛び込んできます。これは4月28日（火）に行われた「人権を考える日」に、一人一人が書き込んだメッセージカード「一人ひとりの人権宣言」を貼り合わせて文字にしたものを20枚つなぎ合わせたものです。



今年の学校グランドデザインに「人権を考える日」の年間を通じての振り返りと人権教育旬間の年2回の実施が、学校運営の柱2の「互いを尊重し合い、支え合い高め合う仲間作り」の中に具体的に位置づけられています。命のかけがえのなさを慈しむ、この「人権を考える日」をずっと大切にしていきたいという願いがこの掲示につながっています。そしてみんなで考え出したそれぞれの「学級の人権宣言」が20枚の模造紙1枚1枚に書かれています。紹介します。

- <1年1組・・・どんな理由があっても、人を傷つけるような悪口やいじめを絶対にしない。>
- <1年2組・・・一人一人の人権を大切に、男女仲良く明るく楽しい一年二組。>
- <1年3組・・・いじめの構造をつくらない自覚をもち、一人である人がいないように積極的に声をかけます。>
- <1年4組・・・みんなが仲間を大切に、仲良くできるクラスにしよう。>
- <1年5組・・・いじめや差別のない笑顔のあふれるクラスにしよう。 ～ 相手の気持ちを考え、人がいやがる事をしない ～ >
- <1年6組・・・傍観者にならず、みんなで「SMILE」の種をまこう>
- <1年7組・・・相手にとっていやな事は何か、それを常に考えながら行動しよう。>
- <2年1組・・・ひとりにしない・見て見ぬふりをしない・困っている人を助ける・がまんをせず相談する・仲間に大切にす・苦しまない >
- <2年2組・・・いじめを起こさず、一人一人が支え合えるクラス。>
- <2年3組・・・クラスからいじめを生まないために、クラスでひとつになって傍観者のいないクラスにする。>
- <2年4組・・・伝えよう！ ありがとう がんばれ 大丈夫。>
- <2年5組・・・相手の気持ちを考えて支える いじめを止める しない 見過ごさない。>
- <2年6組・・・関わり合い、支え合い、思いやりをもって、高め合えるクラス。>
- <2年7組・・・一人一人がいじめをやめさせる勇気を持とう。～傍観者から支えられる人へ～ >
- <3年1組・・・○仲間の良い姿を沢山発見する。○誕生日を充実させる。○全ての命を大切に給食残食ゼロ。>
- <3年2組・・・皆、平等に接し、気づきを働かせてあいさつから会話を広げる。>
- <3年3組・・・One for all all for one ～ 自らの負の可能性といじめの芽をつくらない！！～ >
- <3年4組・・・いじめがあっても仲間を支えられる人になろう！ >
- <3年5組・・・しよう思いやり 気づこう思いやり >
- <3年6組・・・全員が相手の個性を理解し、机をびったりくっつけることが出来るクラスにしていく。 >

ひとつひとつの「学級人権宣言」を目にしなが、5月23日（土）に行われた長野上水内教育会総集会の講演会を思い返していました。

講演は「NPO法人ジョブネットワーク ベル相談室臨床心理士 角田みずぶさん ～ ともに生きる 明日をつくる通訳（かかわり）の力 ～」でした。自閉症の次男「コーヘイさん」を中心とした家族の歴史と現在からの講演でした。「通訳（かかわり方）」という耳慣れないキーワードは「その人の行動を、周囲がプラスのストロークで意味づけてあげる」ことであり、より端的に「肯定的に言葉をかけてあげる」ということだと受け取りました。「通訳者（かかわり方）の心得」として①尊敬心と探究心＝相手をみくびらない謙虚さ、敬意に基づく観察 ②柔軟さと Update＝未知への許容と慢心なき更新 ③受け取りやすくする工夫＝生活の言葉を使う。（難解な言い回しでなく） 肯定的な言葉がけと関わり。不安にさせない表現と表情（落ち着きと笑顔） を挙げられていました。

胸にストーンと落ちる「役に立つ通訳」のエピソードとして。ハワイに家族旅行で出かけた際、空港での歓迎ぶりが「コーヘイさん」にとっては非常にうるさく、同行した姉に「うるさいを英語で言うと何？」と聞きます。そのまま訳して伝えれば歓迎に水を差してしまうことを十分知っている姉は「Im Fine!」と教えてあげます。出迎えの人たちに向かって「Im Fine!」と怒鳴った「コーヘイさん」がレイを首に掛けてもらうほどの熱烈歓迎されたことはいまでもありません。

人と人とはその関係性の中で居心地を感じるものです。生徒諸君は、毎日の触れ合いの中でより良い触れ合いと居心地の良さを求めています。それぞれの「学級の人権宣言」の言葉には、その願いが託されています。

・・・・ご来校の際、「学級の人権宣言」を是非目に留めてあげてください。